

大学出前講義（1年生理数科）

演題：「食品が病気を防ぐ、食品が遺伝子に働きかける」

12月14日（木）に、岐阜大学応用生物科学部の長岡利教授をお招きし、出前講義を行いました。病気の原因やそれを防ぐ食品の機能性について学習しました。

[出前講義の様子]



[生徒の感想]

世界で最も多い死因が、ガンではなく心臓血管疾患であり、食生活と深く関係があることにとても驚いた。どうしたら、LDL コレステロールを下げられるのだろうと思っていたら、食品でできるという所が面白いと感じた。その有効成分が、生物の授業で習った、タンパク質、ペプチド、アミノ酸などであり、高校の学習と大学での発展的な内容が深くつながっていることがわかった。また、その有効成分は、DNA 上にある遺伝子に働きかけ、遺伝子の発現を調節していることがわかり、興味を持つことができた。

高校と大学との違いについて、各大学でカリキュラムが違うという事以上に、そこで活躍されている大学の先生の専門性が違うという話が印象に残った。大学を調べる時に、漠然と調べるのではなく、どんな先生がいるのか、どんな研究があるのかまで調べたいと思った。また、大学では「価値を変えるような研究」を大切にしているという説明があり、心が惹かれた。私も、いろいろなものの価値観を変えられるような研究を大学で行いたいと思った。